

# がんセンターNEWS

Aichi Cancer Center News

## 整形外科部長就任のあいさつ



愛知県がんセンター  
中央病院 整形外科部長  
筑紫 聡

平成27年6月1日付けで整形外科部長を拝命しました。平成8年に愛知県がんセンターレジデントとして腫瘍整形外科医の経歴をスタートさせ、その後名古屋記念病院6年と名古屋大学病院12年を併せて20年間臨床医として研鑽を積んできました。

今までの経験で感じることは、骨軟部腫瘍（こつなんぶしゅよう）を専門とする医師や施設があまりにも少ないため、正しい情報を得ることができずに困っている患者さんがとても多いということです。このような方がいかに当科を受診できるようにするかが我々の使命であると思っています。①肉腫/サルコーマと診断された ②癌の骨転移で骨が折れてしまった ③脂肪腫と診断されたが手術を行うべきか迷っている ④最近しこりに気づき大きくなっている ⑤けがをしてレントゲンをとったら骨に異常があると指摘されたなど、このようなことでお困りの方は、病診連携室を通じて迷うことなく当科を受診していただければと思います。特に肉腫/サルコーマは、その適切な診断と治療には整形外科医・病理医・薬物療法医・外科医・放射線科医・形成外科医を含めた医師が科の枠を越えてチーム医療を行う「専門施設での集学的治療」が必須である疾患です。

当科は平成6年の開設以降、東海地区の肉腫治療のセンターとして活動を続けています。専門性の高い治療こそ垣根のない病診連携とわかりやすい説明が重要であると考え、患者さんに応じた最適な治療が提供できるよう努めて参ります。

## リハビリテーション部長就任のあいさつ



愛知県がんセンター  
中央病院 リハビリテーション部長  
吉田 雅博

2015年4月からリハビリテーション部長を命じられました吉田雅博です。前任の杉浦英志先生が名古屋大学医学部保健学科の教授に就任され、整形外科は筑紫聡先生、リハビリテーション科は私が担当することになりました。

がんセンターにリハビリだけを目的として入院することは無いので、当院におけるリハビリは各科のサポート的な存在です。たとえば、がんにより長期臥床を要して廃用症候群（寝たきりに近い状態）となった場合、いざ退院になっても自宅に歩いて帰れなければ自宅での介護や施設への入所が必要になります。また、終末期の患者さんが、少しでも高いQOLを保ち、生きる価値を維持できるようにサポートすることも重要なリハビリの役割です。

現在、理学療法士が1名、言語聴覚士が1名しかいないため、ベッドサイドのリハビリや周術期のリハビリが思うようにできません。しかし、がん患者さんが増えるにつれて、がんのリハビリテーション（がんリハ）はこれからどんどん必要になってくるため、理学療法士、作業療法士の増員をお願いしています。リハビリテーション部では、患者さんおよびご家族の希望を尊重しつつ、その尊厳を保つことに配慮した医療を目指します。

## 薬剤部長就任のあいさつ



愛知県がんセンター  
中央病院 薬剤部長  
岩田 修一

本年4月に薬剤部長に着任しました岩田修一です。よろしくお願ひします。

10年以上前に数年間当院に赴任しておりましたが、その当時の薬剤部とはずいぶん様変わりをし、薬剤師に求められる業務が多岐にわたるようになりました。薬剤師の人数も約倍に増え、大きくなった組織を率いることに責任の重さを痛感しています。

薬剤師の代表的な業務といえば、処方せんに基づき患者さんの薬を作る調剤業務や注射薬の払出しですが、それ以外でもいろいろな業務を行っています。

抗がん剤注射の混注業務では、抗がん剤の投与が、適切な量、方法、投与期間で計画されているかをチェックした後、無菌的に混合して払い出しをします。

服薬指導業務では、入院患者さんのベッドサイドへ出向き、薬のみ方や使い方、注意事項の説明をしたり、薬の効果が出ているか、副作用が出ていないかなど確認をしたりします。常用薬調査では患者さんが自宅で服用していた薬の種類、薬効等を鑑別、のみ方を確認し、治療計画に役立てます。各チームに参加し、医師や看護師と連携したチーム医療を実践したり、薬の情報を収集し、院内のスタッフや患者さんに情報提供をしたりといろいろです。薬剤部では、薬をとおして、患者さんの体調が良好な状態になるよう、あるいは良好な状態を保つためにいろいろな手助けをし貢献をしたいと考えています。

## 高校生の一日看護体験研修がありました（8月5日）

名古屋市内の50名の高校生を迎えての研修は、まず白衣に着替え写真タイムから始まり、病院長から「人を支えたいと思える人になってください。」という応援メッセージや、看護部長からは、「患者さんを支えるためには多くの職種が専門性を発揮しチームで活動しています。生涯続けられる職業なので是非看護師を目指してください。」という話の後、病棟看護師と、食事の配膳や検温や処置に同行し看護の実際を体験しました。



初めての白衣は「何だかそわそわします。」とやや緊張した様子でしたが、実習中は真剣に先輩看護師の話を聞き、満足そうな表情で戻って見えました。その後の質問タイムでは、「汚物の処理も嫌な顔をせず笑顔でできるようになるにはどれ位かかりますか?」「看護師さんは常に頭がフル回転していて驚きました。」など新鮮な目で感じた声や、「絶対看護師になりたいので勉強頑張ります。」と力強い感想も頂き、私たちにとっても貴重な時間となりました。参加して頂きありがとうございました。

## 2015年度「高校生基礎実験体験講座」開催

2015年8月5日、愛知県がんセンター研究所にて、第74回日本癌学会学術総会との共催企画、高校生向け基礎実験体験講座「がん細胞を探し出せ!～正常細胞とがん細胞の違いを観察しよう～」が開催されました。

当日は高校生14名が参加し、大腸がんについて消化器外科の小森医長から講義を受けた後、研究者の指導のもと、家族性大腸ポリープ症のモデルマウスと大腸がんモデルマウスの組織切片を染色・観察し、正常細胞と腫瘍細胞の違いを学びました。参加者のアンケート調査によると「難しいこともあったけど楽しく実験できた」「学校では体験できないような実験だった」など大変好評でした。

本講座では、高校生に「がん研究」に関する実験を自ら行ってもらい、生命科学の面白さ、医学研究・がん研究の重要性を理解してもらうことを目的としています。また、研究所内を見学したり、研究者と直接対話したりする機会を提供することで、彼らが研究者という職業を身近に感じ、進路のひとつとして考える契機になることも期待しています。



## センター探訪 ⑨

## 薬剤部 (注射室)

愛知県がんセンター中央病院の薬剤部には2階の調剤室と地下1階の注射室があります。今回は日頃目立ちにくい部署である地下1階の注射室の紹介です。注射室では院内の注射薬の管理と供給、抗がん剤の調製などを行っており、お薬の使用が適正に行われるようお薬の専門家である薬剤師が活動しています。

## 薬剤部のお仕事



注射薬の保管と在庫確認



注射薬の払い出し

注射室では院内で使用される注射薬を保管しており、注射薬の管理・在庫の調整を行っています。注射室から院内へ払い出される注射薬は、患者さんに安全にお薬が提供されるよう、全て薬剤師による鑑査が行われています。



注射薬の鑑査

注射薬の鑑査を行っています。特に抗がん剤は使用されるお薬の組み合わせによって、副作用を予防するためのお薬などが変わってきます。薬剤師は使用されるお薬の安全性やスケジュールなどについて確認を行っています。



抗がん剤の調製

抗がん剤の調製を行っています。同じお薬でも患者さんごとに使用する量が異なるため、抗がん剤を調製する時は細心の注意を払っています。院内で使用される点滴の抗がん剤のほとんどは薬剤師が調製を行っています。

新しい治療法が生まれていく中、お薬の種類や使用方法はますます複雑になり薬剤師の役割は大きくなっています。これからも患者さんに安全にお薬が届けられるよう日々励んでいきます。

## 部長就任あいさつを兼ねて

研究所 ～遺伝子医療研究部～

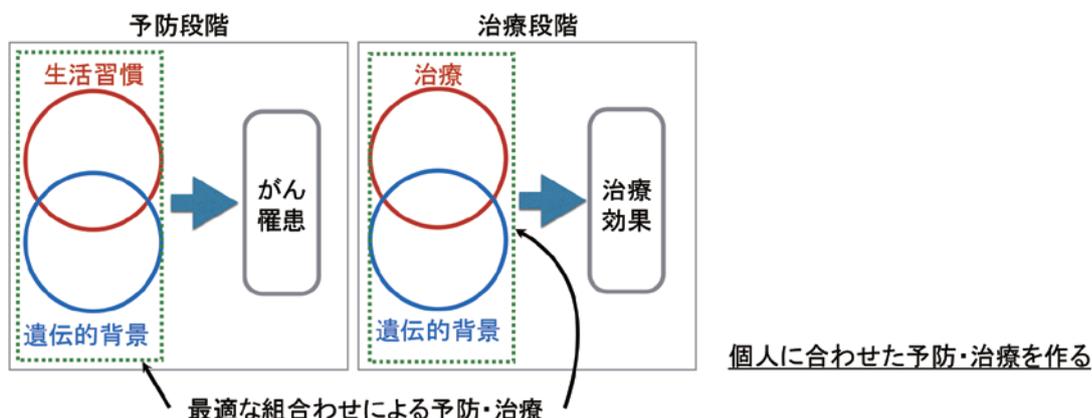


遺伝子医療研究部長  
松尾 恵太郎

ご縁あり、再び愛知県がんセンターに赴任いたしました。これまで、「なぜがんという病気に罹るのか？」に答えるべく、遺伝子と生活習慣などの環境要因の組み合わせ効果を評価する研究を中心に、当センター、九州大学にて研究活動を行って参りました。これまでの研究経験・教育経験を元に、当センターの発展は元より、愛知県民の健康増進に貢献したいと考えております。

遺伝子医療研究部では、これまで中央病院・血液細胞療法部との連携のもと、白血病・リンパ腫などの血液悪性腫瘍の発がんメカニズムの解明、その臨床応用を目指した研究を実施して参りました。この度私が合流し、さらに遺伝子・環境などの個人差を考えた医療や予防、いわゆるテーラーメイド医療・予防につながる研究を展開していく予定です。

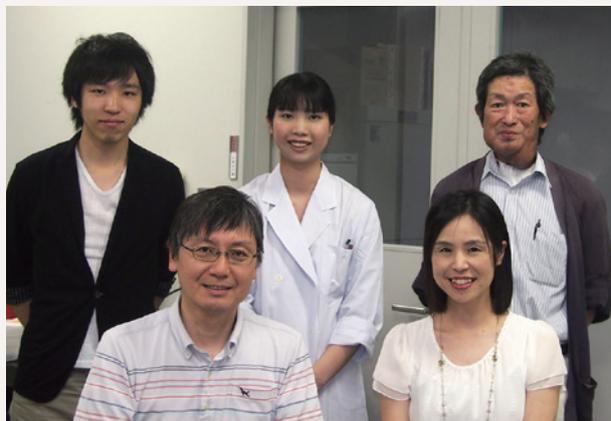
本年度はその皮切りとして、国立研究開発法人日本医療研究開発機構の支援の下、研究所疫学・予防部、中央病院乳腺科、国立がん研究センター、鹿児島大学との連携による、乳がんのテーラーメイド予防に関する研究プロジェクトを立ち上げます。



## 研究員の紹介

研究所 感染腫瘍学部

私たちの体をつくる細胞では、必要なだけ増えたり、移動したりするために、様々な信号（シグナル）のやりとりが行われています。しかし遺伝子の変異やウイルス感染などはこの仕組みを乱し、その結果細胞が本来とは異なる場所で無秩序に増えるといった変化が起こります。がんやその転移の背景には、シグナル異常があります。私たちは、シグナルを制御している機構を詳しく調べ、がんの進行についてより深く理解するとともに、新たな治療法につながる成果を目指して研究に取り組んでいます。



後列左から：二宮悠一 任意研修生、宮田真美子 研究技師、  
中洲章 主任研究員  
前列左から：神田輝 室長、小根山千歳 部長

# がん漢方について

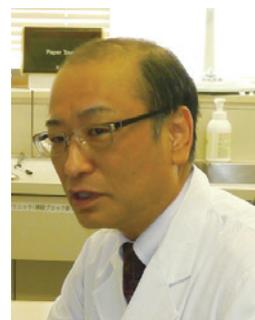
中央病院 ～循環器科部～

当センターの循環器科では、循環器病診療以外に漢方診療も行っております。今回は、がん漢方治療について述べます。

補剤に属する漢方薬に抗がん作用があるという報告がされて以来、補剤である十全大補湯、人參養榮湯、補中益気湯が抗がん漢方薬として注目されています。<sup>1)</sup>

補剤の抗がん作用の機序は、補剤がマクロファージ、T細胞、NK細胞に作用してがん免疫能を強化する事であると報告されています。<sup>2,3)</sup>

現在では、多くの施設で十全大補湯などが使われるようになりました。しかしながら、いい事ばかりではありません。十全大補湯は、女性ホルモンに関連の強い乳がん、子宮体がん、大腸がんなどを悪化させる可能性があります。その理由は、十全大補湯に含まれる当帰、川芎に女性ホルモンを増加させる作用があるからです。したがって、これら疾患に十全大補湯を私は原則処方しません。当センター主催の学術講演会での富山大学の済木先生のご講演で、小青龍湯が大腸がんの肺転移を悪化させるデータが示されておりました。このように、漢方薬は、抗がん作用を示す反面、悪化させる作用も持っていますので怖い薬です。がん漢方薬には補剤以外に多くの方剤や生薬があります。がん漢方治療では、がん種に合わせた処方を細心の注意を払いながら、精密に選択していく必要があります。当センター循環器科では、がん漢方に関する多くの経験に加え、さらなる知識の蓄積を行いながら、がん漢方療法を行っておりますので、よろしくごお願い申し上げます。



循環器科部長

波多野 潔

## 参考文献

- 1) Ohnishi Y, et al: Inhibitory effect of a traditional Chinese medicine Juzen-taiho-to on progressive growth of weakly malignant clone cells derived from murine fibrosarcoma. Jpn J Cancer Res 1996; 87: 1039-1044
- 2) Saiki I: Review: A Kampo medicine "Juzen-taiho-to" -Prevention of malignant progression and metastasis of tumor cells and the mechanisms of action-. Biol Pharm Bull 2000; 23: 677-688
- 3) Chino A, et al: Juzentaihoto, a Kampo medicine, enhances IL-12 production by modulating Toll-like receptor 4 signalling pathways in murine peritoneal exudates macrophages. Int Immunopharmacol 2005; 5: 871-882

## スタッフ紹介

中央病院 臨床検査部

患者さんの体の状態を調べるために、血液や尿などから色々な成分を医療機器や測定法を駆使して分析し、また、心電計や超音波測定器などを使用して心臓の動きや臓器に異常がないか検査しています。できるだけ迅速にしかも正確に検査結果を報告するために29名の正規職員、17名の嘱託員と2名の研修生のスタッフが日夜奮闘努力しております。さらに精度を上げるために認定技師の資格取得や精度保証にも力を入れています。



所臨床検査室長と生理・化学検査科スタッフ



谷田部部长と遺伝子病理検査科スタッフ

## 第46回日本膵臓学会大会を終えて

中央病院 ～消化器内科部～



消化器内科部長  
山雄 健次

平成27年6月19日、20日に名古屋国際会議場にて、第46回日本膵臓学会大会を開催させて頂きました。病院を始め、愛知県、医師会、中日新聞など各方面から多大なるご支援、ご協力を戴き、大きな成果をあげて無事終了できたことをご報告し、感謝を申し上げます。

この学会大会は「伝承と変革」をテーマに、先達の豊富な経験と知識は講演を通じてご提供戴き、一方で若き研究者・臨床医からは革新的な内容のご発表を戴きました。今までに類を見ない1,164名と多数の参加者がありました。



また、学会前の13日午前中には名古屋城を周回するコースでパープルストライド・イン名古屋を、午後からは市民公開講座を開催し、それぞれ257名、383名が参加され、膵がんに対する知識を深めて戴きました。また、学会翌日のチャリティゴルフも企画し110名余が参加され、集まった寄付金は膵がんの患者・家族団体（パンキャンジャパン）に寄付をさせて頂きました。

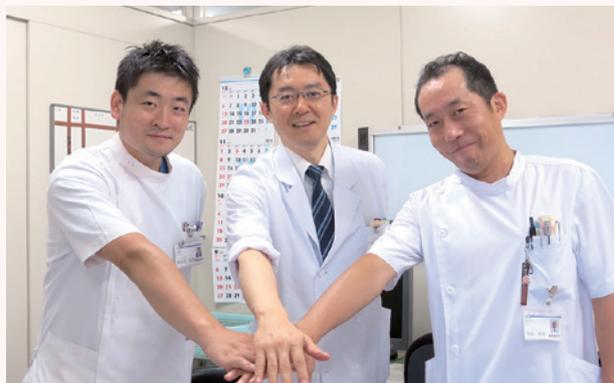
今回の学会開催を機に、当科では今後も膵がんに対する高いレベルの内視鏡的診断・治療をご提供すると共に、最新の抗がん剤治療を実施し、最大の難治癌と言われる膵がんの予後改善に努力していきたいと考えています。



### 診療医の紹介

中央病院 整形外科部

整形外科部は3名の医師で骨軟部腫瘍（こつなんぶしゅよう）の診断と治療を行っています。骨軟部腫瘍とは骨や軟部組織（主に筋肉や脂肪組織や神経）に発生する腫瘍のことです。骨軟部腫瘍は希少（まれ）な病気であるため専門に診療する医師や施設が少なく、診断や治療が難しいと言われています。チームワークを第一に考え、患者さんにわかりやすい医療を提供できるように努めています。



左から：長谷川弘晃 整形外科医長、筑紫聡 整形外科部長  
吉田雅博 リハビリテーション部長

## シヴァナンダヨガを開催しました

平成27年8月7日（金）に国際医学交流センター大会議室で、ボランティアによる患者さんのためのヨガを開催しました。患者さんの体への負担を考慮しながら、講師の先生の動きにあわせて無理のないように様々な動きをしてもらいました。参加された方からは、「参加してよかった」などの感想をいただきました。今後も患者さんに満足していただけるよう、患者さんのためのイベントを開催していきたいと思っております。



## 医療連携室のご案内

対応時間	月曜日～金曜日 午前9時00分～午後7時00分 土曜日 午前9時00分～午後1時00分
電話番号	052-764-9892（直通）
FAX	052-764-9897（24時間稼働しております。）
ホームページ	<a href="http://www.pref.aichi.jp/cancer-center/hosp/">http://www.pref.aichi.jp/cancer-center/hosp/</a> 中央病院トップページ右手にある「医療連携」のバナーをクリックしてください。利用の手引や様式など、詳細を掲載しております。

## 外来診療案内

受付時間	午前8時30分～午前11時30分（自動再来受付機による受付は午前8時からできます。）
休診日	土・日・祝日、年末年始
診療科	消化器内科、呼吸器内科、循環器科、血液・細胞療法科、薬物療法科、頭頸部外科、形成外科、呼吸器外科、乳腺科、消化器外科、整形外科、脳神経外科、泌尿器科、婦人科、皮膚科、眼科、放射線診断・IVR科、放射線治療科、緩和ケア科（精神腫瘍科・リンパ浮腫外来・ペインクリニック）
外来診療担当医一覧	毎月1回、月初めに更新しています。詳しくはホームページをご覧ください。
休診情報	お電話またはホームページでご確認ください。

※再診予約制：診察券をお持ちの方は、診察予約をしてください。052-764-2911（直通）午前9時～午後5時（土・日・祝・年末年始を除く）  
 ※セカンドオピニオン外来は、全科で対応しています。（完全予約制・自由診療）  
 ※精神腫瘍科は、予約のみの対応です。

## 交通のご案内

### ★公共交通機関のご案内

地下鉄利用 名城線「自由ヶ丘駅」2番出口から徒歩7分  
 市バス利用 基幹2系統・星丘11系統「千種台中学校」下車徒歩4分

### ★車でのご案内

- ◎一般道路  
 本山交差点から北へ約10分、平和公園の北西
- ◎高速道路  
 東名高速道路「名古屋IC」から西へ約15分  
 名古屋高速「四谷出口」から北へ約10分

※詳しくはホームページをご参照ください。



愛知県がんセンター Tel.(052)762-6111 Fax.(052)764-2963  
 〒464-8681 名古屋市千種区鹿子殿1番1号 ホームページ <http://www.pref.aichi.jp/cancer-center/>

愛知県がんセンター

検索